

りそな外為レポート

りそな WEEKLY COLUMN

りそな外為レポート

米金利の動向とにらめっこ (P2)

りそな銀行 市場トレーディング室
カスタマーディーラー 田中 春菜

今週のドル円予想レンジ **106.00 ~ 107.00**

りそなWEEKLY COLUMN

コロナ禍に隠れて・・・混迷続くリビア情勢 (P3)

りそな銀行 総合資金部
奥井 泉太

- リビアは大きく二つの勢力分裂、更に中東・欧州各国の思惑に揺さぶられる
- アフリカで原油埋蔵量一位であることから、原油価格に影響も

2020/8/17

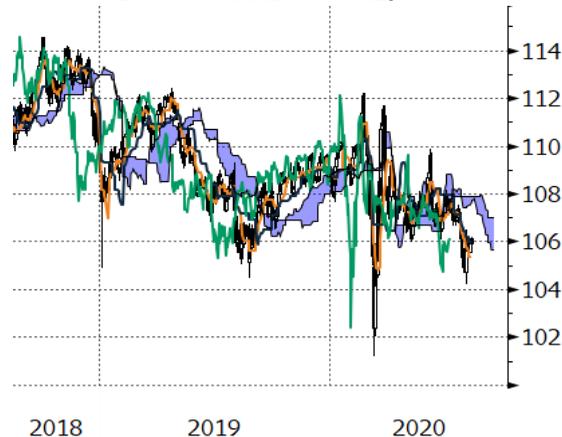
りそな外為レポート

米金利の動向とにらめっこ

今週のドル円予想レンジ **106.00 ~ 107.00**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

◆ドル円一目均衡表（日足）



◆為替相場のすすめ

1か月半近く、じりじりと低下していた米金利が、ようやく反発した。米国債10年ものの利回りは0.70%台に突入した他、足元のドル円も金利の上昇につられて、円安方向の107円台を試す動きとなった。米金利の利回りが上昇し、真っ先に売られたのが“金”。米国の大規模財政出動と金融緩和により、市中にドルがジャブジャブに出回っている中、金のパフォーマンスは良好だった。そのためバカンス前の利益確定の売りが出たのであろう。

今週は主要経済指標の発表が限られている中、19日に7月の米FOMC議事録の発表が予定されている。現在のマーケットのメインテーマは『米金利の上昇』の為、注目が集まるであろう。先月の米FOMCでは、新型コロナウイルスによる米国経済の先行き不透明感が強く、緩和措置の解消は当面先との見方が示され、超ハト派姿勢を維持した。今回の議事録にて、9月にフォワードガイダンスの強化等、更なる緩和の強化の可能性が確認されれば、金利の上昇も落ち着き、ドル円は上値重くもみ合うものと予想する。

(カスタマーディーラー 田中春菜)

◆今週の日程

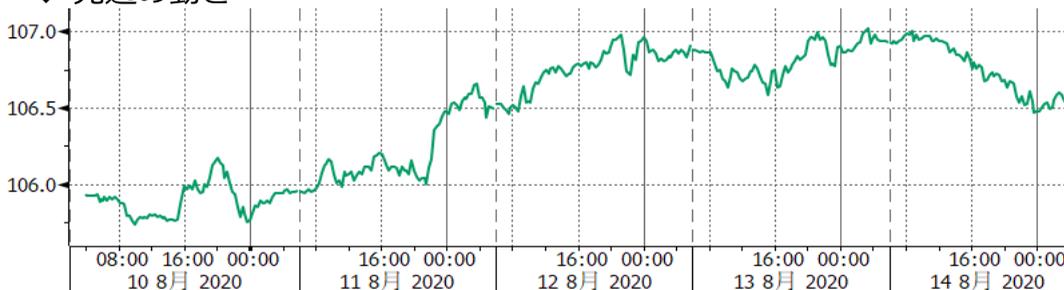
17日(月) 日 4-6月期GDP1次速報値
17日(月) 米 民主党全国大会(～20日)
18日(火) 日 30年国債入札
18日(火) 米 7月住宅着工件数
19日(水) 日 6月機械受注

19日(水) 日 7月貿易統計
19日(水) 米 20年国債入札
19日(水) 米 7月FOMC議事要旨
20日(木) 米 8月フィラデルフィア連銀製造業景況指数
21日(金) 日 7月CPI

◆今週の予想 (ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓) NY引け値 8月14日(金) 106.60円 VS 8月21日(金)

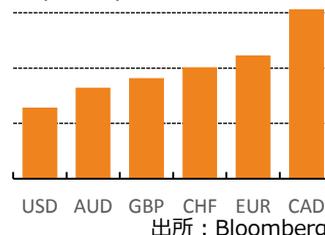
東京					大阪				埼玉						
井口	中根	湊	小新	鳥井	田中	浦本	中里	伊藤	鈴木	武富	野瀬	小林	津田	石井	佐藤
↓	↓	休	↓	↓	↓	↑	↓	↓	↓	↑	↓	↑	休	↓	↑

◆先週の動き



主要通貨対円パフォーマンス

8/7→8/14



◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

2020/8/17

りそな WEEKLY COLUMN

コロナ禍に隠れて・・・混迷続くリビア情勢

- リビアは大きく二つの勢力分裂、更に中東・欧州各国の思惑に揺さぶられる
- アフリカで原油埋蔵量一位であることから、原油価格に影響も

りそな銀行 総合資金部
奥井 泉太

原油の地政学リスク 中東のみにあらず

今年4月に原油先物価格の一種であるWTI先物が一時マイナス圏となり、その後もコロナ禍における需要後退懸念から原油価格は低位で推移している。しかし原油価格は元々地政学リスクに振れやすく、当リスクの所在地は中東のみにあるわけではない。今回は元々原油生産が盛んであり、また現在も激しい戦闘の続く北アフリカのリビアを取り上げる。



【※出所：Bloomberg ローソク足は日足】

北アフリカ・リビア 「アラブの春」の後



「アラブの春」の混乱の中でカダフィ大佐が殺害された後、リビアでは統一政府の樹立に失敗し、各地の有力者が乱立する事態となった。その後主に2つの勢力に集約された上で、内戦が続いている。一つは首都トリポリに拠点を置く国連公認のシラージュ暫定政権、もう一つは油田の多いリビア東部に拠点を置きハフタル司令官率いる「リビア国民軍（LNA）」である。

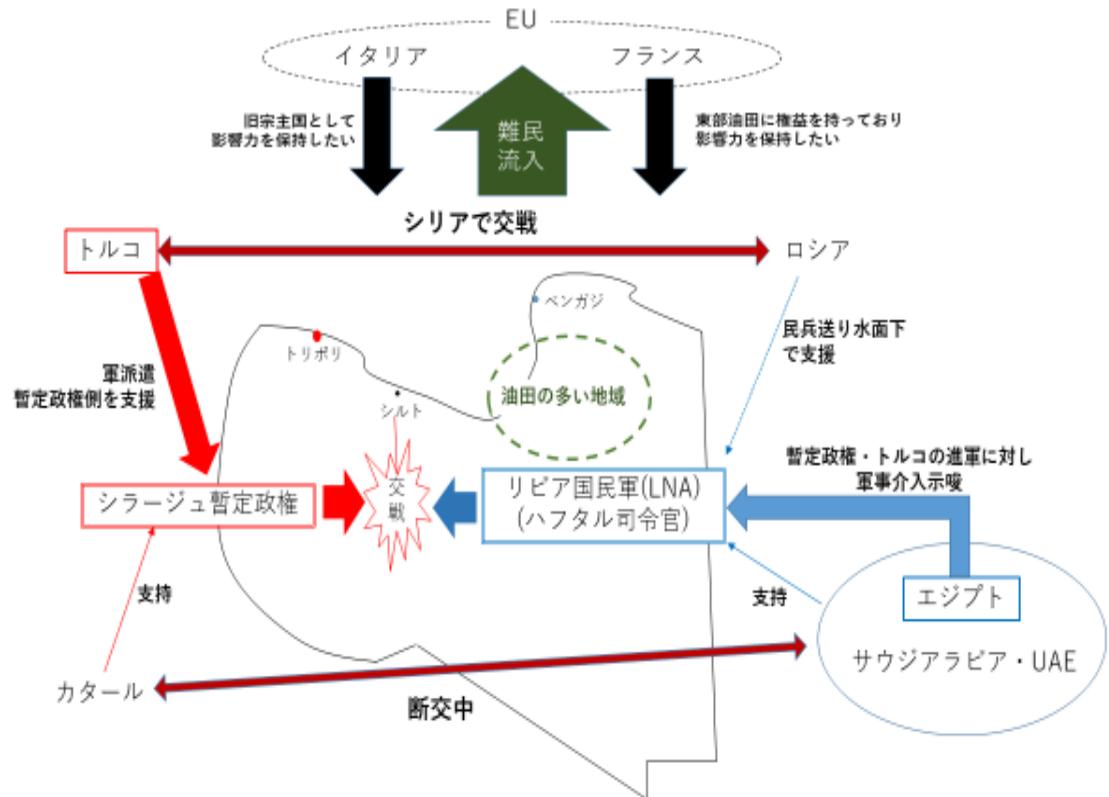
一時LNAはシラージュ暫定政権の拠点であるトリポリまで侵攻したものの、トルコがシラージュ暫定政権を支援するため軍を派遣したことで形勢が逆転、シラージュ暫定政権側がシルトまでLNAを押し返し現在に至っている。

◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

りそな WEEKLY COLUMN

各国の思惑・・・

リビア情勢は当2つ勢力に各国の思惑・介入が絡み事態を複雑にしている。要点は下記相関図を参考にして欲しいが、追加で補記する。



・トルコ：国連公認であるシラージュ暫定政権を支援することで軍事介入を一見正当化させている。しかし、トルコは地中海におけるガス田開発・ガスパイプライン建設でEUやエジプトと対立しており、リビアのシラージュ暫定政権と地中海上で有利なEEZ（排他的経済水域）協定を結ぶことで、EUやエジプトの動きを牽制している。つまりこの軍事介入はEEZ協定の見返りともいえる訳だ。

・イタリア：もともと伊土戦争（1911-1912）でオスマン＝トルコからリビアの地を奪取、植民地にしてきた経緯有り。リビアは地中海を挟んで対岸に位置しており難民船も度々漂着。リビア情勢は旧宗主国としても難民問題の点からも無視できない。シラージュ暫定政権寄りとされている。

・フランス：トルコとは地中海のガス田開発でもともと対立、またリビア東部の油田にも権益を持ち、公にはしていないがLNAを支援している。

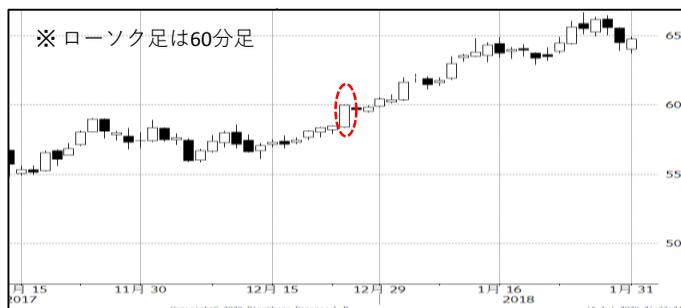


りそな WEEKLY COLUMN

原油価格への影響

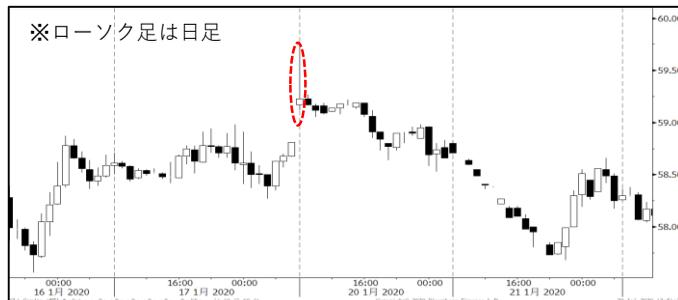
リビアはアフリカで最大の原油埋蔵量を誇るため、リビア情勢は少なからず原油価格に影響を与える。過去のWTI先物価格の事例を参照すると・・・

○2017年12月27日



リビア東部のガスパイプラインが爆破。イスラム過激派が実行したとされる。WTI先物は60ドルをつけた。

○2020年1月20日



LNAの原油の輸出妨害に伴い、原油生産が日量約80万バレル減少するとNOC（リビア国営石油会社）が18日に発表。イラクの一部油田の生産停止報道も受け、週明けにWTI先物は一時急上昇した。

現在はコロナ禍に伴い原油需要は抑制されている。さらにLNAが油田や原油輸出港を封鎖し、原油生産も最盛期に比べ既に10分の1近くまで減っており、更なるリビア情勢の悪化が原油価格の上昇に寄与する可能性は低いであろう。一方で今後、シラージュ暫定政権とLNAの和平交渉が進み、原油生産・輸出が回復し始めた場合は、原油の需給のたぐつきが意識され、原油価格の低下材料になる可能性はある。

では今後リビア情勢は混迷から脱することができるであろうか？この混迷脱出を難しくしているのが、リビア情勢に介入している各国である。どの国も自国の利益（例：石油資源、海洋権益）に叶う勢力を支援するが、強力な軍事介入をしてしまえば、多大なコスト・人命を払うことになり、国外・国内からの批判も浴びることになる。そのため多くの国は、武器供与など間接的な介入を行い、武器のみ溢れたリビアは不安定な状態が続くことになる。そしてリビア国内は疲弊していき難民が増加する・・・残念ながらリビア情勢は、シリアと同じような道筋を辿ると思われる。

リビアについては、現在のコロナ禍でニュースで取り上げられることも少なく、また地政学的ニュースとしては香港やシリアに目が向けられることも多いが、国際社会において日本もリビアの惨状に目を向ける必要があるのではないだろうか。

リビア混迷は続くのか・・・

- 日本経済新聞
 - ・「原油、2年7ヶ月ぶり高値 リビアでパイプライン爆発」（2017/12/27）
 - ・「トルコ、内戦のリビアに派兵へ 欧州・ロシアをけん制」（2019/12/26）
 - ・「リビア『代理戦争』混迷、エジプトが軍事介入警告」（2020/6/22）
- 朝日新聞
 - ・GLOBE+ トルコから見える世界
 - ・「『第2のシリア』懸念強まるリビア 介入するトルコが込める『リベンジ』の思惑」（2020/6/10）
- Bloomberg
 - ・「Oil Prices Gain as Plentiful Supply Tempers Libya Disruption」（2020/1/20）
 - ・「Libyan Oil Industry Thrown Into More Chaos as Haftar Digs In」（2020/7/13）



◎注意事項
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。